

## 国民体育大会から国民スポーツ大会へ! 第78回 国民スポーツ大会



令和6年度の国民スポーツ大会(SAGA2024)は、2024年10月5日(土)、佐賀市SAGAサンライズパークSAGAスタジアムで、国民スポーツ大会に名称を変えて初めての総合開会式が行われた。

新しい趣向として総合開会式の入場行進は形を変え、2つのゲートから入場。入場順も48年前に開催された前回の佐賀大会以降の開催順にスタジアムに入るというものであった。入場後はメインスタンド正面に向かって、中央部分で、都道府県ごとの“掛け声”を行うもので、本県は「がんばるぞ広島!オーっ!」のもと士気を高めた。聖火台もスタジアム中央に設置され、移動可能な形へと変化を感じるものとなった。

本県本大会選手団は、36競技の選手・監督と本部役員の総勢512名、この開会式には、ウエイトリフティング選手3名と本部役員18名で臨んだ。

男女総合成績8位以内を目標に取り組んでいる本県としては、会期前1、会期前2の幸先良いスタートからいかに得点を重ねられるか、本会期での活躍に期待が高まった。

写真 左:開会式前の広島県選手団 右:閉会式も様変わり。体育館内で光を駆使したパフォーマンスのもとで開催された。

会期前1:岡崎遥海選手(カヌー:成年女子)



会期前2:サッカー成年女子・少年男子チーム



# 第78回 国民スポーツ大会

本県は、国民スポーツ大会総合成績8位以内を目標に掲げ、各競技とも力いっぱい努力を続けている。国体から国スポへと変化する今年、選手、監督のみならず、本部役員を含め関係者すべてが、気持ちを奮い立たせ、新たな気持ちで大会に臨んだところである。

今年は、会期前競技が2回になったことで、会期全体が40日間、実際の競技日数も35日と延び、チーム広島として参加する開会式に多くが集うことも難しい状況にあった。

このような中、チームワークが何より大切な団体競技で優勝が6と広島のチーム力を発揮できた場面も多く見られた。

個人競技でも優勝4、これら10種目の優勝を含め団体・個人での入賞は全体で56、男女総合成績は19位(1059.0点)と、4大会ぶりに10位台となり、まだまだとはいえ、8位以内入賞の目標に一歩ずつではあるが、近づいている。

## ■会期前1回目実施競技

9月5日からの会期前1競技(水泳、ローイング、体操、カヌー)終了時点では、水泳競泳22.0点、飛込7.0点、アーティスティックスイミング15.0点、カヌースラロームの2種目優勝16.0点、計60.0点と、近年になく大奮闘となり、会期前2へとバトンが渡されることとなった。

水泳ではアーティスティックスイミング少年女子の小埜心咲選手(崇徳高校)・竹岡小夏選手(五日市観音中)が幸先良く4位を獲得。これに続き、競泳少年男子Bの川浦瑛大選手(吹田市立第六中(一家転住特例適用))が100m自由形で2位と大健闘。さらに競泳成年男子、少年女子が続き、飛込では、成年女子森淵茉莉愛選手(広島日野自動車(株))が2種目で入賞するなど、水泳全体で44.0点を獲得。さらには、カヌー・スラローム成年女子岡崎遙海選手(戸田建設(株))がオリンピックの貫録を見せつけ、2種目で優勝を果たし、以後の競技に響をつないだ。



川浦瑛大選手  
(競泳：少年男子)

## ■会期前2回目実施競技

9月21日から始まった会期前2競技では、ソフトテニス少年女子(広島翔洋高)が見事な粘りを見せ大会2連覇を達成し、勢いが増すこととなった。これを受けて、サッカー成年女子、少年男子がダブル優勝を果たし、関係者一同歓喜に包まれるとともに大興奮となった。少年女子チームも



ソフトテニス  
少年女子チーム



サッカー少年女子チーム



豊澄隆成選手  
(セーリング：少年男子)

3位と大健闘。サッカー全体の見事なチームワークが際立ち競技別総合1位を獲得。テニスの少年女子井上季子選手・上野梨咲選手(山陽女学園高等部)の4位奮闘、セーリングの豊澄姉弟(麻希選手(広島なぎさ高)・隆成選手(広島なぎさ中))の3位入賞も光った。会期前2のソフトテニス、サッカーの優勝を含む入賞者の見事な活躍により、本会期に向けて大いに勢い付いた。

## ■本会期

10月5日の開会式から本会期が始まった。ゴルフ成年男子の安定性、更にはチームワークの良さを見せつけた優勝、少年男子も5位と好成績。アーチェリー成年男子の安定した2位、自転車競技の踏ん張り、ホッケー成年女子は佐賀の競技場の難しい人工芝に戸惑いながらも貫録の優勝。ラグビーフットボール成年男子の3位はこれもまたチームワークの良さが光った。ボウリングでは成年女子石本美来選手(JFEスチール(株))の大会新記録となる圧巻の投球に本部役員も大騒ぎをして喜んだ。レスリング、空手道の入賞にも顔がほころんだ。会場は離れたが馬術の奮闘、少年男子眞田蒼選手(佐伯高)の2位に湧きに湧いた。本来の力が少し出なかったがソフトボール少年男子・少年女子の5位も大きな得点となった。陸上競技成年男子走幅跳の安立雄斗選手(福岡大院)の優勝を始めとする陸上各種別12種目の入賞は力強さを感じた。そして見事な初優勝を見せてくれた銃剣道少年男子の大活躍には、広島の中でも大歓声が上がった。

こうして、佐賀国スポ2024が幕を閉じ、早くも第79回国民スポーツ大会に向けた動きが始まっている。

来年は、男女総合8位以内を!



ホッケー：成年女子チーム



ゴルフ：成年男子チーム



石本美来選手  
(ボウリング：成年女子)



安立雄斗選手  
(陸上：成年男子)



銃剣道：少年男子チーム

第78回国民スポーツ大会における広島県の総合成績は、1059.0点で19位であった。

## 本大会入賞者・チーム一覧

競技名	氏名	所属	種別	種目	順位	
陸上競技	安立 雄斗	福岡大学大学院	成年男子	走幅跳	1	
	安立 雄斗	福岡大学大学院	成年男子	三段跳	6	
	山本 匠真	広島大学	成年男子	100m	2	
	池崎 愛里	ダイソー	成年女子	800m	6	
	勝治 玲海	九州共立大学大学院	成年女子	ハンマー投	8	
	団体	広島県選抜	成年少年女子共通	4×100mR	8	
	荒谷 匠人	近畿大学附属広島高等学校東広島校	少年男子B	100m	3	
	中島 壮一朗	広島市立舟入高等学校	少年男子共通	5000m競歩	2	
	本宮 優心	広島県立世羅高等学校	少年男子A	5000m	6	
	松本 真奈	広島県立広島皆実高等学校	少年女子A	100m	3	
	増原 優羽	広島県立広島皆実高等学校	少年女子A	300m	3	
三好 美羽	福山市立神辺西中学校	少年女子B	100m	8		
水泳	渡辺 隼斗	自衛隊体育学校	成年男子	平泳ぎ100m	4	
	松川 晟士	中央大学	成年男子	バタフライ100m	4	
	川浦 瑛大	吹田市立第六中学校	少年男子B	自由形100m	2	
	川浦 瑛大	吹田市立第六中学校	少年男子B	自由形400m	6	
	山本 優羽	崇徳高等学校	少年女子A	個人メドレー400m	8	
	大木 そら	広島市立沼田高等学校	少年女子B	バタフライ100m	8	
	森淵 茉莉愛	広島日野自動車(株)	成年女子	飛板飛込	6	
	森淵 茉莉愛	広島日野自動車(株)	成年女子	高飛込	5	
	小埜 心咲	崇徳高等学校	少年女子	テクニカルルーティン+フリールーティン	4	
	竹岡 小夏	広島市立五日市観音中学校	少年女子	テクニカルルーティン+フリールーティン	4	
サッカー	団体(15名)	広島県選抜	成年女子	—	1	
	団体(16名)	広島県選抜	少年男子	—	1	
	団体(15名)	広島県選抜	少年女子	—	3	
テニス	井上 季子	山陽女子学園高等部	少年女子	—	4	
	上野 梨咲	山陽女子学園高等部	少年女子	—	4	
ホッケー	団体(14名)	コカ・コーラレッドスパークスホッケー部	成年女子	—	1	
レスリング	アントニオ・ブレイブ・ベネロカサバ	(株)前川製作所東広島工場	成年男子	フリー125kg	5	
	俵 風五	広島県立賀茂高等学校	少年男子	フリー92kg	5	
セーリング	瀨田 華帆	福山市役所	成年女子	セーリングスピリッツ級	5	
	浅田 愛子	(公財)広島県セーリング連盟	成年女子	セーリングスピリッツ級	5	
	豊澄 隆成	広島なぎさ中学校	少年男子	ILCA6級	3	
	豊澄 麻希	広島なぎさ高等学校	少年女子	ILCA6級	3	
自転車	田村 一暉	京都産業大学	男子A	1kmタイムトライアル	5	
	白井 愛美	広島市立広島工業高等学校	女子	ポイントレース	4	
	白井 愛美	広島市立広島工業高等学校	女子	個人ロードレース	8	
ソフトテニス	団体(5名)	広島翔洋高等学校	少年女子	—	1	
馬術	眞田 凌	眞田ライディングクラブ	成年(男子)	トップスコア	4	
	眞田 翔	眞田ライディングクラブ	成年(男子)	スピードアンドハンディネス	5	
	眞田 蒼	広島県立佐伯高等学校	少年(男子)	スピードアンドハンディネス	2	
	眞田 蒼	広島県立佐伯高等学校	少年(男子)	リレー競技	6	
	吉本 充輝	広島なぎさ中学校	少年(男子)	リレー競技	6	
ソフトボール	団体(13名)	広島県選抜	少年男子	—	5	
	団体(13名)	広島県選抜	少年女子	—	5	
ラグビーフットボール	団体(11名)	広島県選抜	成年男子	—	3	
カヌー	スラローム	岡崎 遥海	戸田建設(株)	成年女子	カナディアンシングル(15ゲート)	1
	スラローム	岡崎 遥海	戸田建設(株)	成年女子	カナディアンシングル(25ゲート)	1
	スプリント	山本 椿	広島県立大柿高等学校	少年女子	カヤックシングル(200m)	5
アーチェリー	河田 悠希	(株)エディオ	成年男子	団体戦	2	
	青島 鉄也	(株)エディオ	成年男子	団体戦	2	
	伊藤 魁晟	日本体育大学	成年男子	団体戦	2	
	肥後 芳希	広島県立佐伯高等学校	少年男子	団体戦	8	
	沖野 直晴	広島県立佐伯高等学校	少年男子	団体戦	8	
	大河 駿仁	廿日市市立佐伯中学校	少年男子	団体戦	8	
空手道	岡本 美羽	国士舘大学	成年女子	組手	5	
	井上 耀太	近畿大学附属広島高等学校福山校	少年男子	形	5	
銃剣道	細川 柊河	広島県立庄原実業高等学校	少年男子	—	1	
	冨田 健太	広島県立東城高等学校	少年男子	—	1	
	細川 楓河	広島県立東城高等学校	少年男子	—	1	
ボウリング	石本 美来	JFEスチール(株)西日本製鉄所	成年女子	個人戦	1	
	山本 智哉	(株)熊平製作所	成年男子	団体戦	5	
	井上 巧真	ブリヂストンリテールジャパン(株)タイヤ館福山曙	成年男子	団体戦	5	
	尾熊 峻太	広島県立神辺高等学校	少年男子	団体戦	8	
	松林 潤生	広島県立安古市高等学校	少年男子	団体戦	8	
	北川 幸希	広島県立賀茂高等学校	少年女子	団体戦	6	
	渡邊 陽	福山市立東中学校	少年女子	団体戦	6	
ゴルフ	寺西 遼馬	日本大学	成年男子	団体戦	1	
	唐下 明徒	東北福祉大学	成年男子	団体戦	1	
	吉田 朋樹	大阪学院大学	成年男子	団体戦	1	
	中上 遼真	東広島市立西条中学校	少年男子	団体戦	5	
	吉行アムロ	東広島市立高屋中学校	少年男子	団体戦	5	
	坂本 大賀	広島国際学院高等学校	少年男子	団体戦	5	

※冬季大会では入賞なし

# 第78回 国民スポーツ大会報告会

第78回国民スポーツ大会報告会が、令和6年11月19日(火)、ANAクラウンプラザホテル広島において、各競技の監督・コーチ、競技団体役員、本部役員等の関係者約100名の出席のもと開催された。

## あいさつ

(公財)広島県スポーツ協会会長 第78回国民スポーツ大会広島県選手団団長 荻田 知英



今年の大会は、昨年のお天杯23位から19位という伸びを見せていただいた。お天杯8位以内という目標には、まだ厳しい道のりではあるが、4大会ぶりに10位台に乗せることができ、一歩前進できたのではないかと申す。監督・選手、関係者の皆様方のご努力ご尽力には、深く感謝を申し上げる。

この報告会では、成果があった点や反省点など、関係する全ての皆さまが共有し、第79回大会に向けて新たなスタートを切ることができれば幸いである。

滋賀国スポでの健闘、本県が目標としている8位以内入賞を目指して頑張ってください。

## 国民スポーツ大会の総括、成績について

(公財)広島県スポーツ協会専務理事兼強化委員会委員長 第78回国民スポーツ大会広島県選手団総監督 小寺 洋



男女総合成績は、前回の23位を4つ上回り、4大会ぶりの10位台19位であった。

競技団体には、選手・監督・コーチの皆様がチーム一丸となって精一杯頑張っていた結果が、また、帯同いただいたドクター・トレーナーの皆様、選手の心と身体に対する献身的なケアにより、最高のパフォーマンスを引き出していただいた成果が出たと思っている。心から感謝申し上げる。

冬季大会は2大会連続して入賞はなかった。スキー競技は、クロスカントリー9位で入賞は逃したが、大会規定により1点が与えられた。冬季大会の獲得点数はこの1点。スケート、アイスホッケーについては、広島県内に通年リンクがないなど、大変厳しい環境の中で、毎回非常に頑張っていたに違いない。引き続き強化への取組をお願いする。

本大会出場にはまず中国ブロック大会を突破しなければならない。今年は、本県のブロック突破率は40.3%と、昨年より0.5ポイントマイナスとなったものの、種目数は昨年と同数で60種目、1位通過は、過去2年と比べて多い。この1位通過の実力がそのまま本大会での得点獲得につながった種目が多くあったが、一方で、得点できなかった種目も比較的多くある点にも目を向けて、分析と対策に努めなければならない。また、岡山県との通過率の差は縮まったものの、この差を埋め更には岡山県を上回らないと本大会での得点が積みあがってこない。中国地方の雄といわれた広島県が、しばらく2番手で苦しんでいる。まず、ブロック大会で勝ち上がることを念頭に、引き続き強化に取り組んでいただきたい。

続いて、本大会の成績であるが、1位を勝ち取った競技は、団体ではサッカー(成年女子)(少年男子)、ホッケー(成年女子)、ソフトテニス(少年女子)の2連覇、銃剣道(少年男子)、ゴルフ(成年男子)。個人種目は陸上競技(成年男子)安立選手、カヌー・スラローム(成年女子)岡崎選手は2種目制覇、ボウリング(成年女子)石本選手は大会新記録での優勝。このほか見事入賞を果たされた選手には心から敬意と称賛を贈りたい。反対に、0点の競技が19競技あった。国民スポーツ大会を意識し強化に努めていただきたい。

今年は、会期前1の競技で、水泳の頑張りとおヌー・スラロームの貫禄の優勝が、会期前2・本大会へと良い流れを作ってくれたと思っている。幸先の良い活躍が印象的だった。

さらに、会期前2の競技では、ソフトテニス少年女子の大奮闘の優勝、サッカー成年女子・少年男子の優勝と少年女子の3位は、本会期へ一層の力を与えてくれ、とても良い形でバトンをつないでくれた大会となったと感じている。

競技ごとの全国順位では、1位にサッカーとゴルフ、2位に銃剣道、6位にソフトテニス、8位にホッケーが入った。今後の継続した活躍に期待が膨らむところである。

さて、今年の総合成績19位の要因の一つには、5大会ぶりに全国順位10位台の16位となった少年種別の活躍がある。国スポで上位に食い込むには、少年種別における発掘・育成・強化対策が重要であり、本県においても、ジュニア層の底上げに取り組んでいるが、ブロックでは岡山県、山口県も早くから力を入れており、小中学校からの発掘・育成が次に生かされるよう、両県では県内の、いわゆる強豪校と言われる高校で活躍できる流れが、本県よりも整っているようである。本県では、ここ何年か若年層の他県流出が課題となっているが、スポーツの世界でも、せつかく本県の中学校で活躍しているのに、早くから他県の高校への進学が決まってしまうような事例が毎年耳に入ってきている。

行政とも連携を図りながら、広島県内の高校で活躍し、そこから大学生や社会人としても継続でき、国スポは本県の大学や企業等から活躍できる良い流れを確立させていかないと、流出に歯止めがかからない。

ジュニア層の発掘・育成・強化に対しては、競技団体の皆さんとのヒアリングを通して、しっかりと協議していきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

最後に、国スポ選手強化費については、28年前のひろしま国体以後、毎年相当額の強化費をいただいている。国スポ常時8位入賞を目標に掲げているが、ひろしま国体以降、9位が4回あるものの目標は達成できていない。繰り返しになるが、国スポを意識した強化策をしっかりと考えていただき、来年もまたチーム広島で一丸となって頑張っていこう。

中国電力はシンボルスポート部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社  
<https://www.energia.co.jp/>

## 競技団体監督からの報告

### サッカー競技(これまでの取組と今回の成果、今後の取組について)

監督 岩田 純児



サッカー成年女子は、私が国体のコーチとして初めて関わった2016年には4位であったが、その翌年に監督となってから9年目、6回目の出場にして初めて日本一という目標を達成することができた。この間、女子サッカーの低迷期というか、なかなか成年女子の種別が広島で根付かなかった時期があったが、そうした中で先輩指導者の方々はずっと支えていただきながら、今回の優勝という成果につなげられたことが広島の強さだと考えている。また、決勝戦では、スタンドからの少女女子チームのすばらしい応援が支えになった。広島県のサッカーが一つになったと感じている。

今回の取組、成果について、三つの柱をお伝えしたい。第1に、まずは目標と目的である。毎回試合前には、目標と目的という二つを選手に伝えている。目標はもちろん日本一になることだが、その中で選手には、目的として、見ている人に感動していただき、心が震えるようなプレー・ゲームをすることを意識づけている。第2は、スタッフワーク。スタッフはチームに貢献したいという気持ちがすごく高い。明確な役割分担とチームにどのように貢献してもらうかを、常にマインドを共有しながら同じ方向を向けるようにしている。第3は、団体競技共通だと思うが、チームにすること。広島県サッカーは選抜チームなので、良いところは伸びしろがあるということ。これをまとめてチームを作ることだと思っている。例えば一緒に行動する時には同じウェアを着ようとか細かいことから一つになるということを念頭に置いている。これはとても大事なことだと思っている。

最後に今後の取組であるが、成年女子という種別に夢を持ってもらえるようにしたい。まだまだ競技人口は少ないが、育成年代の子供たちが目指せる一つの指針として今回の優勝というものもあると思う。目指してもらえ存在になることで少年世代を含めて一つのチームになる。今まで作り上げてきたものを大事にして、まとまりのある雰囲気の良い広島県サッカーが一つのチームとして存在することで、本県スポーツ界全体に何か貢献できればと思っている。

### 陸上競技(今大会の振り返りと今後の取組について)

監督 松谷 清志



陸上競技は、毎年全種目が実施されるものではなく、2年ごとに種目が変わる。

選手は全29名、男女の多い方が19名までという制限の中で、入賞する可能性の高い選手を選考する。パリオリンピックに出場した選手でも、今年の国スポには出場種目がないということがある。逆に出場種目があっても怪我で国スポを断念せざるを得ないことや、自身の専門種目以外の種目に出場させるかどうかといったことも選考の中では生じる。

こうした中でも、今回は、1種目の優勝を含む12種目で入賞を果たすことができた。

また、100mは、成年男女、少年A男女、B男女と、6種別あるが、このうち4種別で決勝進出したことはとても良かったと思っている。

現在、4×100m男女混合リレーという種目に注目している。また、300mや400mというロングスプリントを強化していくことも考えている。高体連の現在のランキングを見ても、このあたりが手薄になっているので、どのように伸ばしていくかを指導者同士で考えているところである。

陸上競技では、専門種目が多くあるが、現在、棒高跳、短距離、長距離の三つの大きな柱に分けて、強化しているところである。また、投てきもかなり細かく記録会などを設定していろいろな選手に目を向けている。来年度も引き続きこれらの柱をきちんと繋げていって、今年以上の得点を取ってきたいと考えている。

また来年もともに頑張っていきたい。

### ゴルフ競技(今大会の振り返りと今後の取組について)

監督 里 太介



今大会は、成年男子が優勝、少年男子は5位入賞、女子は31位で、競技別総合1位という結果を残すことができた。好成績を残すことができた大きなポイントは、育成と絆ではないかと思う。

優勝した成年男子は、高校時代から少年男子代表として何回も国体に出てくれていたが、優勝はなかった。ただ、長年にわたって国体を経験したことで培った技術や精神力が、今回花開いたと感じている。選手選考も悩むところも多く不安もあったが、現地に行って感じたのは、成年男子の雰囲気がとても良いこと。初日首位、2日目を終えて見事優勝というのは、ジュニア時代から一緒に戦ってきた選手の絆ではないかと感じた。

少年男子も中学3年生から高校3年生の中から選考ができるが、今回は中学3年生が2人という若いチームであった。実力は折り紙付きではあるが選手選考は悩んだところである。悩んだ末のチーム編成となったが、少年チームが現地に入る様子を見ると、雰囲気がとても良い。チームワークがすごく、和気あいあいとしている。この結果が5位入賞という好成績につながったと感じている。

一方、成年女子は、なかなかみ合わない部分があった。何かお互いにリスペクトできない様子が感じられた。蓋を開けて見ると31位という結果に終わってしまった。

ゴルフは個人競技だが、団体戦でチームを組むときに、やはりチームワークが大切であると感じた大会であった。

今後の取組は、選手ファースト、プレーヤーファーストということはもちろんで、選手が伸び伸びとできる環境づくり、選手を優先してということではあるが、これにより、選手や保護者がわがままになっているのではないかと。また、現在はいろいろなハラスメントがあり、選手もスタッフもいろいろ苦労されているので、大切なものは守りながら、素直な選手育成ができればと思っている。

素直とは、笑顔で元気にきちんと挨拶ができる選手、周りへの気配りができる選手、目を見て会話をして元気な返事ができる選手、最後に、ありがとうが言える選手ではないかと思っている。

来年に向けて強化練習、大会に臨んでいくが、守るべきところは守りながら選手育成をして、是非とも総合成績8位以内入賞に少しでも貢献できればと思っている。

未来を、  
こうしよう!

私たちは、描いているビジョンがあります。  
緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。  
私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献していけるよう。  
これからも時代のニーズに合わせて進化し続けながら、  
みなさまとともに歩んでいきます。

- 屋内電気工事
- 空調管工事
- 情報通信工事
- 配電線工事
- 送変電地中線工事
- リニューアル工事
- エネルギー関連工事
- 環境関連工事

**86th 中電工**  
CHUDENKO

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号  
www.chudenko.co.jp

# 令和6年度 広島県スポーツ少年団 指導者研修大会

## リオ五輪金メダリスト 金藤理絵さんを講師に迎えて

令和6年11月23日(土・祝) 広島国際会議場において、今年度のスポーツ少年団指導者研修大会を開催しました。

演題：「這い上がる力」

講師：金藤 理絵

広島県庄原市出身

2016年リオデジャネイロオリンピック

競泳日本代表主将

女子200m平泳ぎ 金メダリスト



### ●故障と挫折からの学び

オリンピックでの金メダル獲得という目標に向かい、小学生の時から夢を胸に抱きながら、日本記録を樹立、更新し世界記録まであと少しというところで腰痛から椎間板ヘルニアを発症。周囲から期待されていたなかで結果が出せず、その後のロンドンオリンピックの選考にも落選し、若手の選手も台頭してくるなか、この先どうしてよいか分からなくなり、もうやめたいと、一度は心に決めていた時期がありました。

そこから再び全力で挑戦できるようになったのは、ふがいないレース結果に対し涙を流していた私に「泣くほどのレースをしていたの?」とコーチから言われたこと、それをきっかけに自分のことを客観的に捉えられるようになり、様々な学びを得ることができました。

大切なのは、これをきっかけに自分は変わるんだと自身の意識を変えることだと思いますが、他にも、初心にもどり、自身についた癖を直しながらより正しい方法を取り入れること、また、結果にこだわり勝ちに対する執着心を持つこと、常に強い自分を演じ続けるという気持ちでいること、怪我に対する捉え方は、治すというだけでなくそもそも怪我をしないためのトレーニングを実践すること、そして、自信がつくのを

待つのではなく、自ら自信を作ること、こうしたことに気づき頑張ることができたことで世界一強い金藤理絵が生まれることとなりました。

夢や目標というものは、達成するためだけに必要なのではなく、壁にぶち当たったとき、もう少し頑張ってみようと思えるきっかけになり、さらに、その夢や目標に向かって頑張る姿勢をみて応援団が生まれ、支えてもらいながら、より明るい未来の存在を信じていけることだと思っています。

### ●選手の力を引き出すため指導者にできること

私を指導していただいた加藤コーチとは大学に進学するときに出会いました。当時の世界記録が2分27秒だったのに、「お前なら2分20秒を切れる、世界一になれる!」と、当時の私には想像もつかないことを言われたのが印象的です。競技に対する熱意がすごく、情熱的で、また、水泳以外のことでも知識が豊富。こだわりが強く、そして何より選手の可能性を信じてくれるコーチでした。

私が変わることができたのはコーチの熱意と情熱があったからだと思います。

選手と向き合う指導者にとって大事なことは、選手とのコミュニケーションを大切にしながら、選手以上に本人の可能性を見つけて信じてあげることだと思います。

特に今の子供たちは、良く言えばスマートでなるべく無駄なことはやりたくないという意識が強く、自分になんか絶対できないと思っている子供が多いように感じます。指導者までがそこで諦めてしまえば、その子供の可能性はそこで終わってしまいます。

その時、あなたならできるよ、応援しているよと伝え続け、個々の選手の特長に合わせて柔軟にコミュニケーションをとりながら、指導にあたっていただくことが大切なのではないでしょうか。



## 令和6年度 叙勲・褒章・文部科学大臣表彰祝賀式 公益財団法人広島県スポーツ協会 スポーツ賞表彰式 開催

令和6年12月7日(土)、祝賀式・表彰式を行いました。叙勲等受章者15名、スポーツ賞功労者の部30名、国際大会、全国大会、国民スポーツ大会の優秀・優勝・入賞者の方々を顕彰いたしました。

※受章(賞)者、受賞式の模様は、第152号で詳しくご紹介します。






# 未来を、ひろげる。











広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんヒューマンリソース | ひろぎんキャピタルパートナーズ | ひろぎんリース  
ひろぎんエアデザイン | ひろぎんクレジットサービス | ひろぎんITソリューションズ | ひろぎんライフパートナーズ

(2024年7月3日現在) 2407

## 「スーパージュニア選手育成プログラム2024」第2回体験プログラム



7月27日(土)、広島市安佐北区のコカ・コーラレッドスパークスホッケースタジアムにおいて、第2回目の体験プログラムを開催しました。今回の体験競技はホッケーです。

指導してくれたのは、日本リーグや国民スポーツ大会で活躍し、パリオリンピックでも多くの選手が日本代表となっているコカ・コーラレッドスパークス女子ホッケー部の選手の皆さんです。忙しい中でもご協力くださり、丁寧にやさしく指導していただきました。ホッケーは

普段あまり経験する機会がないので、ほとんどの選手が初体験だったのではないのでしょうか。

まず、ホッケーの基本的なルールや道具の使い方を教わった後、まずは選手と一緒にウォーミングアップをします。

そして、いざ、グループに分かれて練習です。慣れないスティックを持ってリフティング、ドリブル、パスを教えてもらいますが、なかなか上手いきません。ホッケーのスティックは片面しか使えず、右利きも左利きも同じスティックです。レッドスパークスの選手を見ていると簡単そうに見えますが、実際にやってみるととても難しいですね。スティックを使ってボールをすくあげる練習もしました。



少し慣れてきたところで、次はシュートとドリブルの練習です。シュートの練習では思い切り空振りをしてしまう姿も多くみられましたが、練習終盤ではゴールに突き刺さるようなシュートが打てるようになりました。ドリブルの練習では、力加減が難しいのかすぐにボールが遠くに行ってしまうと上手に進めませんでしたが、レッドスパークスの選手のアドバイスのおかげで、スムーズにドリブルができるようになっていました。

最後はお待ちかねのゲームです。男女別のチームに別れてゲームを行いました。最初は、どうしてもボールに人が集中してしまい団子状態でなかなかゴールが決まりません。他のチームが試合をしている様子を見ながら作戦を立てたり、レッドスパークスの選手の明るく楽しく分かりやすいご指導のおかげで、だんだんとコツをつかみ、初心者の選手ばかりとは思えないほど、良い動きがゲームの中で見られるようになりました。互いのチーム力が拮抗し、攻守が激しく入れ替わりながらの手に汗握る試合展開を繰り広げていて、とても良いゲームをしていました。ジュニア選手たちは、周りの仲間と連携してゴールを目指すことや、フィールドを広く使う大切さなど、チームゲームの面白さを味わうことができたのではないのでしょうか。ジュニア選手たちは普段なかなか体験できないホッケー競技を十分に満喫できたと思います。

今日の体験がきっかけとなり、将来、レッドスパークスやオリンピック日本代表で活躍する選手が出てくることに期待しています。今回も広島県小学生体育連盟の先生方、T&TWAMサポート株式会社の方、多くの方々にご支援・ご協力いただきました。ありがとうございました。



## 「スーパージュニア選手育成プログラム2024」第3回体験プログラム

8月3日(土)、広島県立総合体育館において、第3回体験プログラムを開催しました。第3回体験プログラムは、午前が「バスケットボール」、午後が「バドミントン」です。

午前のバスケットボールは、広島ドラゴンフライズ#30山崎稜選手、同スクールコーチの富松絵梨コーチ、真貝凌平コーチに指導していただきました。



まずは準備運動やステップ運動などをしてからボールになれるためのドリブルです。ドリブルをしながら、相手のボールをはじくゲーム方式などで楽しみながらボールの扱い方を覚えていきます。ゲームで勝ち残ったジュニア選手たちと山崎選手で最終決戦が行われ、ジュニア選手たちは果敢に山崎選手に挑みますが、プロからボールをはじくのは至難の業です。勝者は山崎選手!プロの選手とのドリブル対決というなかなか経験することのできない練習を通して、バスケットボールになじんでいきます。



次に、山崎選手のお手本を見て、アドバイスを受けた後に、シュート練習を行いました。レイアップのような近距離シュートからスリーポイントのような遠距離シュートまで練習します。チームの中で、シュートが決まると「ナイスシュート!」、決まらなかったら、「ドンマイ!」と声を掛け合いながら、練習に励みます。

そして最後には、山崎選手との1対1のシュート対決!立候補したジュニア選手たちの中から5人が選ばれ、1人ずつ山崎選手と対決しました。ジュニア選手も一生懸命にゴールを狙ってシュートを決めていましたが、結果は山崎選手の全勝!体験をきっかけにいつか山崎選手にも負けなくらいにシュートを決める選手がジュニア選手の中から誕生するかもしれません。最後に参加した全員で集合写真を撮って午前の部は終了しました。

午後のバドミントン、広島ガスバドミントン部の選手の皆さんに教えていただきました。

まずは、準備体操からはじまりウォーミングアップを行いました。お手本をみながら、さまざまなステップの動作を練習し、からだを温めていきます。

からだが温まったところで、さっそくラケットをもって持ち方の指導、振り方を教わっていきます。選手のお手本を見ながら、基本となる素振りを繰り返し行いました。

そして、実際にシャトルを打っていきます。最初は、なかなかうまく打ち返すことができなかつた子供たちもだんだんと慣れてきて打ち返すことができるようになってきました。

また、シャトルをラケットですく練習や、シャトルを直上へうちあげて打つ練習等もおこないました。チームごとに何回繰り返し選手とラリーを続けることができるか、チームのみんなで声を出しながらおこないました。うまく打てなくて試行錯誤する様子もみられ、選手のお手本を参考に一生懸命頑張っていました。この体験をきっかけに、バドミントンの魅力を感じ、新しいスポーツにも挑戦してくれたら嬉しいです。

また、今回の保護者を対象としたサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会の田村進先生による「メンタルサポート」をテーマに講演していただきました。受講された保護者の方々は、良いパフォーマンスを発揮するために最適な集中の状態や、目標設定の最適レベル、子供のやる気を引き出すための声のかけ方などについて、熱心に耳を傾けており、講演後には試合後の子どものメンタルケアについてなど、保護者からの質問が多くありました。ジュニア選手を育成するうえでは、各家庭でのサポートは欠かせません。スポーツの指導現場と家庭が一緒になって選手の成長を見守りたいと思います。

今回も広島県小学生体育連盟の先生方やT&TWAMサポート株式会社の方、多くの方々にご支援・ご協力いただきました。ありがとうございました。



# 第49回 広島県民スポーツ大会開催

令和6年9月8日から11月23日までの間、県内各地において11競技を開催した。天候等での中止もなく、一般の部・スポーツ少年団の部、計4,659人が参加し熱戦を展開した。各競技の1位は次のとおり。

競技【部】	種別	種目	第一位	
陸上競技	スポーツ少年団の部	小学	男子	100m 久保 良輔 (三原陸上クラブ)
			男子	80mH 岸 貴太 (chaskiジュニア)
			男子	4×100mR 広島ジュニアオリンピッククラブ (A)
			女子	走幅跳 小川 幹太 (セトナミススポーツクラブ)
			女子	100m 小玉 希美 (東広島TFC)
			女子	80mH 佐々木爽乃 (東広島TFC)
		中学	男子	4×100mR 東広島TFC (A)
			男子	走幅跳 伊藤 朱璃 (東広島TFC)
			男子	200m 加藤 優翔 (古田中学校)
			男子	4×100mR 古田中学校
			女子	走高跳 金川 世夏 (尾道市)
			女子	砲丸投 柳生陽日記 (庄原市)
	一般の部	男子	200m 渡邊菜梨香 (因島南中学校)	
		男子	4×100mR 東広島TFC	
		男子	走高跳 岩田 唯来 (東広島TFC)	
		男子	砲丸投 左近 陽菜 (竹尋アスリートクラブ)	
		女子	3000m 平田 圭 (庄原市)	
		女子	4×100mR アトレティカ広島	
柔道	スポーツ少年団の部	男子	小学生 (3・4年) 興仁道場	
			小学生 (5・6年) 八本松	
			中学生 崇徳学園	
			小学3年生 羽村 次郎 (川口)	
			小学4年生 川俣 稔生 (興仁道場)	
			小学5年生 鑄鍋 臣 (八次)	
		女子	小学6年生 岸野 剛士 (八本松)	
			中学1年生 堂處 健斗 (崇徳学園)	
			中学2年生 高原 悠凜 (崇徳学園)	
			中学3年生 川口 陽生 (崇徳学園)	
			小学生 (4~6年) 有朋	
			中学生 興仁道場	
	一般の部	小学3年生 吉田 希生 (八次)		
		小学4年生 堂處 愛 (興仁道場)		
		小学5年生 秋元 稀心 (有朋)		
		小学6年生 角田 彩 (有朋)		
		中学1年生 花本 優歩 (興仁道場)		
		中学2年生 鑄鍋 まさ (八次)		
		中学3年生 中曾 羚衣 (能美)		
		剣道	スポーツ少年団の部	小学3・4年生男子 有場 恵太 (東広島剣道クラブ)
				小学3・4年生女子 木場 結月 (剣志会)
				小学5・6年生男子 大熊 天晴 (東広島剣道クラブ)
				小学5・6年生女子 鶴田 花楓 (己斐剣道)
				中学生男子 橋本 洗人 (安浦一心館)
中学生女子 上野 琴 (阿賀剣光会)				
一般の部	男子 福山市 (A)			
	女子 広島市西区			
ソフトボール	スポーツ少年団の部	A 龍王ソフトボール		
		B 川上		
		C 志和		
		D 阿賀Gビクトリー		

競技【部】	種別	種目	第一位
ソフトボール	一般の部	竹原会場 A 山波小学校区体育協会 (尾道市)	
		B 安体協 (安佐南区)	
		東広島会場 C 三篠体協ソフトボール部 (西区)	
		D 戸坂体協 (東区)	
		E 蔵王ソフトボールクラブ (福山市)	
バスケットボール	一般の部	男子 呉クラブ (呉市)	
		女子 FOREVER (広島市)	
バレーボール	一般の部	男子 東広島クラブ (東広島市)	
		女子 桜華 (福山市)	
ソフトテニス	少年団の部	小学生	男子 玉井 連・高田脩介 (さきがけTO)
		中学生	女子 西村 雫・森川永埜 (三原ジュニア)
		中学生	男子 高橋駿心・渡辺来翔 (DAIMON)
		中学生	女子 寄立琉花・川中さわ (祇園東)
		一般の部	東広島市
バドミントン	少年団の部	男子 団体戦 因島BJC	
	少年団の部	女子 団体戦 海田JBSC (A)	
卓球	スポーツ少年団の部	男子	小学1・2年生 江崎 海 (ティーエスクラブ)
			小学3・4年生 原 昇太 (可部町卓球)
			小学5・6年生 グェン カック ヴェット (広島フェニックス)
			中学1年生 波多間勇利 (可部町卓球)
			中学2年生 菅 朔太郎 (可部町卓球)
			小学1・2年生 松井 結垂 (広島フェニックス)
	女子	小学3・4年生 藤井 美優 (SK)	
		小学5・6年生 村上 里花 (Flower)	
		中学1年生 二神 咲来 (SK)	
		中学2年生 板倉 光希 (可部)	
		一般の部	廿日市市 (A)
		空手道	スポーツ少年団の部
小学生3・4年生男子 矢野 奨悟 (牛田新町)			
小学生5・6年生男子 長行 我生 (和道会広島東)			
中学生男子 前田 一輝 (瀬野)			
高校生男子 宮本 泰志 (拳志館八本松)			
小学生3・4年生女子 高岡 美空 (拳志館八本松)			
小学生5・6年生女子 辻 奈央 (拳志館龍王)			
中学生女子 矢野 光 (牛田新町)			
高校生女子 藤本菜津美 (修交会五日市)			
団体戦 和道会広島東 (広島市)			
小学生9級以下 吉野 伊織 (坂町)			
小学生7・8級 吉川 暁生 (坂町)			
小学生5・6級 茶林 澄磨 (坂町)			
個人戦	小学生3・4級 石井 瑛 (吉浦)		
	小学生2級以上 宮武 千桜 (和道会広島東)		
	中学生男子 下地 莞右 (五日市)		
	中学生女子 尾川 悠 (拳志キッズ)		
	高校生男子 玉城 瑠人 (東浄)		
	高校生女子 横山 珠夏 (五日市)		
団体戦 東浄 (広島市)			
ゴルフ	一般の部	男子 庄原市 (B)	
		女子 東広島市 (A)	



## 総合型地域スポーツクラブ 交流会開催

11月4日、第49回広島県民スポーツ大会総合型地域スポーツクラブ交流会を北広島町大暮養魚場で行い、アマゴ釣りやモルック体験で交流を深めた。

